

御国の福音

第1回：御国と創造（創世記1～11章）¹

目次

I. 王国の創造（創世記1章）	2
A. 創造の御業	
II. 王国の憲法（創世記2:15-17）	3
A. 創世記2:15-17	
III. 王たちの失敗：墮落（創世記3章）	3
A. 人の墮落	
B. 関係性に対する墮落の影響	
C. 救い主なる王への希望（創世記3:15）	
IV. 王国と洪水（創世記6-9章）	6
A. 王国への裁き	
B. 王国とノア契約	
V. 王国と諸国民	9
A. 創世記10-11章の重要性	
B. バベルの塔事件と諸国民の拡散	
C. 諸国民の系図についての結論	
VI. 創世記1-11章における御国の計画のまとめ	11

I. 王国の創造（創世記1章）

A. 創造の御業

1. 神は六日間のうちに天体、海、土地、植物、動物などを創造された。
 - (1) 神は被造物を「良しと見られ」（1:4、10、12、18、21、25）、「非常に良かった」と判断された（1:31）。
 - (2) 霊肉二元論（霊的なものが良く、物質的なものは悪い）は聖書的ではない。

2. 最後に、被造世界を治める「王」として人間が創造された。
 - (1) 創1:26-28

²⁶神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」²⁷神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。²⁸神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

 - (2) 人は被造物の中で唯一、神の「かたち」として、「似姿」に創造された。
 - a) 「かたち」は人が神の大使として地上を治める王であることを示している。（神と人とは主従関係にある）
 - b) 「似姿」は神と人が親子関係のような特別な関係にあることを示している。

 - (3) 「王」は一人ではない。
 - a) 人は「男と女」から成る、多様性を持つ存在として造られた。
 - b) アダムとエバには、他の「神のかたち」（王たち）を産み出す役割も与えられた。

 - (4) 人が治めるよう委ねられた御国の領域は、天ではなく地上である。

天は 【主】 の天。／地は 主が人の子らに与えられた。（詩篇115:16）

II. 王国の憲法（創世記 2:15-17）

A. 創世記 2:15-17

¹⁵神である【主】は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。¹⁶神である【主】は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。¹⁷しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。

1. アダムには唯一の禁止命令（「善悪の知識の木からは、食べてはならない」）が与えられた。

2. この命令はいわば「御国の憲法」である。
 - (1) アダムは神の子として、また神の代理の王として創造された。

 - (2) この命令を守ることで、アダムは神を崇めていることを表現できた。

 - (3) アダムは、彼の王権が究極の王である神の下で行使されるべきだと理解する必要がある。

III. 王たちの失敗：墮落（創世記 3章）

A. 人の墮落

1. アダムとエバの失敗
 - (1) 彼らは罪を犯し、「善悪の知識の木からは、食べてはならない」という命令を破った。

 - (2) 彼らの罪は、神の真実さと誠実さを疑い、神のようになりたいという欲望を抱いたことにある。

 - (3) 彼らは王の王である神に反逆を企てたのである。

 - (4) この時点より、歴史は神の王国とサタンの王国の戦いに支配されるようになった。
 - a) アダムとエバを誘惑した蛇の背後にはサタンの力がある。
 - b) サタンは「反・御国の計画」（the anti-kingdom program）を企てている²。

2. 被造物への影響

(1) 人類全体への影響

- a) 神との霊的繋がりが断絶した（霊的死）。また、肉体的に死ぬようになった。
- b) 霊的に死んだため、そのままでは被造物の王としての役割を果たせなくなった。

(2) 他の被造物への影響（創 3:17-18）

- a) 人の支配下にあった他の被造物はのろわれた。
- b) 人は治めるべき「大地」によって苦しめられるようになった。

(3) 罪は霊的な問題だが、被造物全体に影響を及ぼしている。

B. 関係性に対する墮落の影響

1. 神と人の関係に対する墮落の影響：人は霊的に神から切り離された。

2. 人同士の関係に対する墮落の影響（創 3:16）

女にはこう言われた。

「わたしは、あなたの苦しみとうめきを
大いに増す。

あなたは苦しんで子を産む。

また、あなたは夫を恋慕うが、
彼はあなたを支配することになる。」

(1) 女性の出産には苦しみに伴うようになった。

(2) 女性は男性を「恋慕う」ようになった。

- a) 出産に苦しみに伴うのに、それでも女性は男性との肉体的関係を求める。
- b) 女性は男性の「助け手」として創造されたが（創 2:18）、男性の権威を奪おうとするようになる。しかし、男性は女性を「支配することになる」。

3. 人と被造物の関係に対する墮落の影響：人による被造物の完全な統治は困難になった。

C. 救い主なる王への希望（創世記 3:15）

わたしは敵意を、おまえと女の間、
おまえの子孫と女の子孫の間に置く。
彼はおまえの頭を打ち、
おまえは彼のかかとを打つ。

1. 女（およびその「子孫」）とサタン（およびその「子孫」）の間には「敵意」が置かれた³。
 - (1) 神の民とサタンとの間には「敵意」が置かれた。この「敵意」は人の歴史を通して続いていく。

2. サタンが打ち負かされるという希望
 - (1) サタンは「女の子孫」によって打ち負かされる。

 - (2) 「女の子孫」は人である。よって、サタンを打ち負かすのも人である。

 - (3) サタンによって墮落し、のろわれた人が、そのサタンを打ち負かす。この約束には被造物の回復という希望がある。

3. 創世記 3:15 はメシア到来の希望を約束している。
 - (1) サタンを打ち負かす「女の子孫」として「彼」という単数形の代名詞が使われている。

 - (2) この預言は「最後のアダム」（1 コリ 15:45）であるイエス・キリストによって成就する。

 - (3) 後の人々はこの約束からメシア（救い主／贖い主）の到来を待ち望むようになった。
 - a) カイン：創 4:1 にあるエバの言葉は「私はひとりの男子、ヤハウェを得た」と訳すことが可能である⁴。
 - b) ノア：この名前には「慰め」という意味合いがある。父レメクはノアについて「この子は、【主】がのろわれたこの地での、私たちの働きと手の労苦から、私たちに慰めてくれるだろう」と言った（創 5:29）。レメクは創世記 3:17-18 の呪いを認識しており、そこからの救いをもたらすのがノアだと考えたようである。すなわち、レメクはノアこそが創世記 3:15 の「女の子孫」だと期待した可能性がある。

IV. 王国と洪水（創世記6-9章）

A. 王国への裁き

1. 罪の増大と洪水による裁き

(1) 創世記6:5-6

⁵【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。⁶それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。

(2) 神は地球規模の洪水により、地上の悪を一掃された。

2. 「創造の逆転」としての大洪水

(1) 創造の時はまず大水が分けられて大空が造られ、それから水を一箇所に集めて海を造られた（創1:6-10）。

(2) 大洪水では、まず「大いなる淵の源がことごとく裂け」、続いて「天の水門が開かれた」。

(3) 大洪水で起きたことは「創造の逆転」である⁵。また、エデンの園から始まった被造物の崩壊のいち段階である⁶。

B. 王国とノア契約

1. 第二のアダム

(1) 悪が増大している地上で、信仰により救われていた（義と認められていた）のはノアだけだった（創6:8；ヘブ11:7参照）。

(2) 神はノアとその家族だけは洪水から救うことを計画された。それは、ノアに「第二のアダム」としての役割を果たさせるためであった⁷。

(3) すなわち、ノアの子孫から創世記3:15で約束された「女の子孫」が出る。ここからノアが御国の計画の中心人物となった。

2. ノア契約（創 8:20-9:17）

- (1) 契約の内容はアダムに与えられた御言葉（創 1:26-28）と似ている。異なるのは、「地を従えよ」や「支配せよ」という言葉が使われていないことである。

¹神はノアとその息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。²あなたがたへの恐れとおののきが、地のすべての獣、空のすべての鳥、地面を動くすべてのもの、海のすべての魚に起こる。あなたがたの手に、これらは委ねられたのだ。（創 9:1-2）

- a) アダムの墮落によって被造物がのろわれた結果、人は以前のように地を治めることができなくなった。
- b) 人と動物の共存が困難なものとなった。肉食が許された結果、人は食物のために動物の血を流すようになり、動物は人を恐れるようになった⁸。
- c) ここでは既に「神の代理の理想的な王と、理想的な王に統治される被造物」という御国が創造された際の本来のイメージが崩壊している。

(2) 人間による「政府」の設立

⁵わたしは、あなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の値を要求する。いかなる獣にも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。

⁶人の血を流す者は、
人によって血を流される。
神は人を神のかたちとして
造ったからである。（創 9:5-6）

- a) 人の命を奪った者による刑罰（死罪）は「人によって」執行される。
- b) 殺人の抑制、また死刑の執行には、人による社会的な統治機能が求められる⁹。
- c) 神はノアに、国家のような統治規則を持った社会的共同体を求めておられるようである。「したがって、創世記 9:6 は人類史において最も画期的な箇所である。ここで、神は罪深い世界における人間の政府の始まりを布告されただけではなく、そのような政府に倫理的・社会的基礎をも据えられたのである。」¹⁰

(3) 自然が滅ぼされないことへの保証

^{21b}「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらさしめない。人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。²²この地が続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜がやむことはない。」（創 8:21b-22）

- a) 洪水によって地が滅ぼされることは決してないということが保証された（9:11 参照）。また、「この地が続くかぎり」季節のサイクルが変わることがないことも保証された。
- b) これは被造物への祝福の約束である。
- c) この約束は、他の契約への保証ともなった¹¹。

²⁰【主】はこう言われる。「もしもあなたがたが、昼と結んだわたしの契約と、夜と結んだわたしの契約を破ることができ、昼と夜が、定まった時に来ないようにすることができるのであれば、²¹わたしのしもべダビデと結んだわたしの契約も破られ、ダビデにはその王座に就く子がいなくなり、わたしに仕えるレビ人の祭司たちと結んだわたしの契約も破られる。（エレ 33:20-21）

(4) ノア契約は、御国の計画が進展していくための土台である。

3. ノアのその後

(1) ノアはアダムのように、地を耕す人となった（創 3:23；9:20）。

(2) ノアはアダムのように、罪を犯した（創 3:6-7；9:21-23）。

(3) ノアはアダムのように、3人の息子を得た（創 4:25；9:18-19）。

(4) アダムの3人目の息子であるセツの家系から、御国の計画の中心人物であるノアが生まれた（創 5:1-29）。そして、ノアの長男であるセムの家系から、御国の計画の中心人物であるアブラムが生まれることになる（創 10:21-25；11:10-26）。

(5) ノア契約はアブラハム契約が結ばれるための舞台を整えた。

V. 王国と諸国民（創世記 10-11 章）

A. 創世記 10-11 章の重要性

1. 諸国民の系図

- (1) 創世記 10-11 章ではノアの 3 人の息子（セム、ハム、ヤフェテ）から出た諸国民の系図が記されている。
- (2) この 2 章では御国の計画における諸国民の重要性が強調されている。
- (3) 御国の計画では、将来イスラエルという国民が現れ、全人類に祝福をもたらす役割を果たすことになる（創 12:2）。諸国民が誕生したことで、イスラエルが登場するための舞台が整った。

2. 「国民」の構成要素

- (1) 創世記 10:5 には「国民」の 3 つの構成要素が記されている。

これらから島々の国民が分かれ出た。それぞれの地に、言語ごとに、その氏族にしたがって、国民となった。

- a) 土地 (*eretz*)
- b) 言語 (*lashon*)
- c) 氏族 (*mishpachah*)

- (2) 創世記 10 章における諸国民は、単に人種や言語に基づいてではなく、彼らのリーダー（王）たちによって分類されている¹²。
- (3) 土地と政府は「国民」にとっての核心である。黙示録 21:24、26 では諸国民と彼らの王について言及されている。
- (4) 諸国民は御国の計画において非常に重要な存在である。

B. バベルの塔事件と諸国民の拡散

1. バベルの塔事件とは（創 11:1-9）

- (1) シンアル（アッカド語でシュメール；現在のイラクおよびクウェートに該当）に、ハムの子孫ニムロデの王国があった（創 10:8-12）。
- (2) シンアルの人々は神への反抗の象徴として塔を建てた。
- (3) 神は人々を裁き、言語を混乱させて彼らを世界中に散らされた。
- (4) 事件が起きた場所はバベル（バビロン）と呼ばれるようになった。

2. バベルの塔事件（創 11:1-9）の2つの重要性

- (1) 神に対する人の抵抗は絶えないことを示している。
 - a) 神はノアに「生めよ。増えよ。地に満ちよ」と命じられた（創 9:2）。
 - b) 人々は1箇所に集まることを望み、世界中に散らばることを拒んだ（創 11:4）。
- (2) 諸国民がどのように誕生したかを示している。
 - a) 人は散らばることを拒んで神への反抗の象徴として塔を建てた。
 - b) 神は人の言語を混乱させ、人々を地の全面に散らされた（創 11:6-9）。

C. 諸国民の系図についての結論

1. 10-11章の構造から見る創世記著者の意図

- (1) 創世記10章に記されている諸国民が誕生した原因は、創世記11章のバベルの塔事件である。創世記10-11章は時系列順になっていない。
- (2) 10章には諸国民の存在が悪いことだと示唆する記述はない。創世記の著者は、諸国民の存在は確かに罪の結果ではあるが、肯定的な発展でもあると見なしていたようである¹³。

2. 諸国民と神の御国の計画

- (1) 諸国民の誕生により、人が全地を満たすという創世記1:28；9:1の御言葉が成就した。

(2) 諸国民の誕生は神が意図されたことであった。

神は、一人の人からあらゆる民を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに決められた時代と、住まいの境をお定めになりました。(使 17:26)

(3) 諸国民は新天新地にも存在している。

²⁴ 諸国の民は都の光によって歩み、地の王たちは自分たちの栄光を都に携えて来る。
…… ²⁶ こうして人々は、諸国の民の栄光と誉れを都に携えて来ることになる。
(黙 21:24、26)

(4) アブラハム契約やイスラエル民族は、創世記 10-11 章の文脈の中で登場する。

VI. 創世記 1-11 章における御国の計画のまとめ

1. 創造者である神は宇宙全体の王である。また、宇宙全体は神の王国である。
2. 創造された王国全体は、物質的・霊的要素ともに、「非常に良かった」と判断された。
3. 神は人を子として、また神の被造物全体を治める王として、ご自身にかたどって創造された。人の主要な任務は、神の栄光のため、地球全体を地上から統治することである。
4. 人は創造主に対して自主的に罪を働いたことで、王国を統治するという任務に失敗した。
5. 墮落の結果、被造物は呪われ、死すべきものとなってしまった。
6. 神は女の子孫が来ることを約束された。彼は呪いを取り去り、サタンを打ち砕く。
7. 人は呪いを取り去る贖い主の到来を待ち望んだ。
8. 神は罪深い人類を地球規模の洪水によって裁かれた。
9. ノア契約は、自然が持続することを保証している。そして、神の御国の計画が歴史を通して進んでいくための土台として機能している。
10. ノアは被造物に対する第二のアダムのような役割を担ったが、彼もまた罪深い人間であった。
11. 神の御国の計画は諸国民の存在を含んでいる。そのことは、バベルの塔事件と諸国民の系図(創世記 10 章)から立証される。
12. 諸国民の誕生は、神が全人類を祝福するため、特定の国民を用いられるということのための状況を整えた。その国民とはイスラエルである。

¹ 本講義は以下のテキストに基づく。Michael J. Vlach, *He Will Reign Forever: A Biblical Theology of the Kingdom of God* (Silverton, OR: Lampion Press, 2017), 59–80.

² William D. Barrick, “The Kingdom of God in the Old Testament,” *The Master’s Seminary Journal* 23/2 (Fall 2012): 178.

³ 創 3:15 の「おまえ」を単純に蛇として捉えるならば、これはエバおよびその子孫と、蛇およびその子孫との間に敵対関係が生まれるという宣言だということになる。しかし、創世記において「人類と（動物の）蛇の敵対」というテーマは展開されていない。したがって、創世記の著者はここにおいて何らかの存在を象徴する表現として蛇を使っているということになる（John H. Sailhamer, *The Pentateuch as Narrative: A Biblical-Theological Commentary* [Grand Rapids, MI: Zondervan, 1992], 107–108; Michael Rydelnik, *The Messianic Hope: Is the Hebrew Bible Really Messianic?*, NAC Studies in Bible & Theology [Nashville, TN: B&H, 2010], 136–37）。ユダヤ教やキリスト教の伝統では、創 3:15 の蛇はサタンを指していると考えられている。しかしながら、サタンの存在が明言されるのはヨブ記（1:6–12; 2:1–7）、歴代誌第一（21:1）、ゼカリヤ書（3:1–2）においてであり、創世記の著者はサタンという特定の存在よりも、単に「神に反抗する者の象徴」として蛇を用いた可能性が考えられる（H. W. Bateman IV, D. L. Bock, and G. H. Johnston, *Jesus the Messiah: Tracing the Promises, Expectations, and Coming of Israel’s King* [Grand Rapids, MI: Kregel Academic, 2012], 461–63）。それでも聖書全体の視点からいえば、ここでの蛇はサタンの象徴として使われていることは明白であろう（黙 12:9 参照）。

⁴ アーノルド・フルクテンバウム『メシア的キリスト論—旧約聖書のメシア預言で読み解くイエスの生涯—』佐野剛史訳（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ出版部、2016年）4頁。

⁵ Paul R. Williamson, *Sealed with an Oath: Covenant in God’s Unfolding Purpose* (Downers Grove, IL: InterVarsity, 2007), 60.

⁶ Ibid.

⁷ Eugene H. Merrill, “A Theology of the Pentateuch,” in *A Biblical Theology of the Old Testament*, eds. Roy B. Zuck and Eugene H. Merrill (Chicago: Moody, 1991), Kindle locations 578–619.

⁸ Ibid., Kindle locations 599–604.

⁹ Peter J. Gentry and Stephen J. Wellum, *Kingdom through Covenant: A Biblical-Theological Understanding of the Covenants* (Wheaton, IL: Crossway, 2012), 166–67.

¹⁰ Alva J. McClain, *The Greatness of the Kingdom: An Introductory Study of the Kingdom of God* (Winona Lake, IN: BMH, 1959), 47.

¹¹ Irvin A. Busenitz, “Introduction to the Biblical Covenants: The Noahic Covenant and the Priestly Covenant,” *The Master’s Seminary Journal* 10/2 (Fall 1999): 186.

¹² Gerhard Von Rad, *Genesis* (Philadelphia, PA: Westminster, 1972), 140.

¹³ Cf. Allen P. Ross, *Creation & Blessing: A Guide to the Study and Exposition of Genesis* (Grand Rapids, MI: Baker Academic, 1996), 230. Kenneth A. Matthews は創世記 10–11 章の主な目的として、全人類への祝福がイスラエルのみを通してもたらされること、また神が諸国民の創造主であると示すことにあると述べている（*Genesis 1:1–11:26*, New American Commentary [Nashville, TN: B&H, 1996], 429–30）。